

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒130 東京都墨田区
東駒形1-16-7
第1ホークプラザ303号
TEL.(03)3625-7307
発行責任者
運営委員長 渡辺孝一

中郵便振替口座
00150-4-15754
(変更になりました。御注意を)
中銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

骨髄バンク推進議員連盟が発足

=今後の活動に期待=

骨髄バンクの支援を目的とする骨髄バンク推進議員連盟が去る十月二十五日に発足しました。代表は下村泰(コロンビア・トップ)参議院議員で、海部俊樹元首相、渡辺恒三新生党代表幹事代行、丹羽雄哉元厚相など衆参両院の各会派十三人が参加しています。

同日はもっと多くの国会議員に参加を呼びかける世話人会として当初開かれたものですが、

数百もあるとされる国会議員連盟のほとんどは、実質的な活動を行っていないこともあり、この世話会をもつて、議員の数を募ることよりも実のある活動を行う議員連盟として、十三人で発足することを決めました。

これまで議員が各自バラバラに行ってきた活動を統一し、より効果的な国会議員としての活動にして行きたいとしています。

今後、国会内各委員会質疑などで骨髄移植対策などをとりあげ、国政に反映させて行くことになり。とりあえずは年内にも、全国協議会の呼びかけに応じて参加議員が街頭に立ち、広く市民に骨髄バンクへの理解を訴えることにしています。

一方、国会内には野田聖子衆議院議員を代表とする「骨髄バンクを支援する若年議員の会」も最近発足しています。全国協議会としては、こうした国会議員の皆さんが互いに連携をとりあい、骨髄バンク推進のための力となつて欲しいと願っています。

バンク事業の総合計画に関する報告書出される

＝全国で積極的な議論を＝

『日本の骨髄バンク事業の現状分析と総合計画の策定に関する報告書』(以下、三谷報告)が、財団に提出されました。

これは、骨髄バンク事業の総合計画を作成するために、財団が(株)三谷事務所に委託したもので、日本の公的バンク事業の現状、課題、将来予測と対策を総合的にまとめた内容になっています。

全国協議会は、今月二十日の

運営委員会に三谷報告の作成者である三谷史生氏を招き、その概要について説明をしていただきました。

三谷報告は、今後のバンク事業の重要な素材になるものであり、全国協議会として各地で積極的な議論をしていただき、要望、意見を財団に反映したいと考えています。

十分な検討をお願いします。

- 骨髄バンク推進議員連盟・名簿
- 岩浅 嘉仁 (衆)
 - 大湖 絹子 (参)
 - 海部 俊樹 (衆)
 - 勝木 健司 (参)
 - 笹木 竜三 (衆)
 - 下村 泰 (参)
 - 武山 百合子 (衆)
 - 渡海 紀三郎 (衆)
 - 西山 登紀子 (参)
 - 丹羽 雄哉 (衆)
 - 野田 聖子 (衆)
 - 若松 謙維 (衆)
 - 渡辺 恒三 (衆)
- (五十音順)

ある患者からの便り

十一月はじめ、全国協議会事務局に一通の手紙が届きました。差し出し人も全く書かれていません。文面は骨髄バンクにより骨髄移植を受けた患者さんからのもので、「ドナー様」と書かれて、ドナーへの感謝の気持ちであふれています。ここにその手紙を掲載いたします。

ドナー様

拝啓 朝夕寒さを感じる季節となりましたが、お体の調子はいかがでしょう。

私、昨秋に貴方様の骨髄液にて命を救われた者です。御礼の手紙がこんなに遅れてしまい、大変申し訳ありませんでした。今年早春、お蔭様で退院できましたが、その後、様々な症状が出て入院をしているうち

に月日が過ぎてしまいました。でも今は、お蔭様で元気にやっています。本来ならドナー様のもとへうかがい直接感謝の気持ちを伝えたいのですが、こういったシステムですのでは仕方ありません。この気持ちは言葉でもあらわせない程です。貴方の骨髄が私の命に再び灯をともしてくれたのです。本当に大きな愛と強い勇気をありがとうございました。

私には弟が二人います。発病した時、真っ先に二人のHLAを調べたのですが、不適合、だめでした。

その頃、私はとても危険な方向にむかっていた。主治医は、家族に私の命の限りを伝えたくて、

骨髄バンクにも登録したのですが、最初の通知は、該当者なしでした。

それから何とか危ない時期から逃げることができましたが、ガン細胞は、身体中にまわり、ついに放射線治療にはいりました。髪はぬげ、体力もおち、もう病気が闘う力がなくなった頃です。

私を助けてくれる、私をもっと生かしてくれる、たった一つの骨髄液が見つかったという知らせがきたのは、それが貴方様の骨髄液だったのです。涙が止まらず、家族皆で泣きました。

移植の日、真っ青な私の腕に貴方様の赤くあたたかな骨髄液が入って来た時、思わず手を合わせました。主治医が貴方様の無事を知らせてくれ、涙があふれました。名も面識もないこの私の為に全身麻酔、骨髄採取、その前の様々な検査を、全て引き受けてくれたドナー様。医者にも、親にも、兄弟にも、誰にも救えなかった私の命を、貴方がありたく助けてくれました。本当にありがとうございます。病気で失ったものは確かにあります。でも病気になるまで見えなかった感謝の心、生き

ることの喜びを得ることができました。

毎晩、ドナー様、両親、兄弟身内に、今日この一日生きたことを感謝し、眠りにつきます。もっと力がつけば、私も骨髄バンク推進のお手伝いをするつもりです。

敬具

毎日お祈り申し上げます。

骨髄バンク推進全国大会'94を大阪で開催

来る十二月十一日(日)大阪のMBSギャラクシーホール(大阪市北区茶屋町)で午後三時より、骨髄移植推進財団主催の全国大会が全国協議会の協力により開催されます。

三回目を迎える今年の全国大会は、第一部が式典と事業経過報告、第二部が複数のドナーとレシピエントの出会い、第三部は「未来にはばたけ骨髄バンク/アジアの仲間とともに」と題して、アジア太平洋地区で骨髄バンクの推進に取り組んでいる方達も参加して充実した大会にしようという準備が進められています。

なお、この大阪の全国大会の準備と運営は関西骨髄バンク推進協議会が実質的に中心となり開催されます。



骨髄バンクNOW

展「いのちの輝き」もMBSギャラクシーホールIFロビーにて行われます。

- [10月末現在検査済ドナー登録者] 56,782人
- [10月末現在患者登録者] 2,453人
- [10月末現在移植件数] 239例

(9月末現在)

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465

☆財団ニュース封入作業完了
財団ニュース(No.6)が完成し、その封入作業が全国6地区(九州、大阪、愛知、新潟、東京、北海道)で、各地のボランティアの協力を得て行われました。ニュースと共に新しく出来上がったドナーカードも各骨髄データセンターを通じて送付されます。

☆コーディネーター養成研修終了間近
6月より約半年間行われてきた平成6年度の養成研修もいよいよ12月9日(金)、国立医療センターにて修了式を迎えます。

☆12月は骨髄バンク推進月間です。
前号でお知らせしましたが、12月11日(日)、大阪市で骨髄バンク推進全国大会'94が開催されます。それに先立ち、12月4日～11日まで白血病と闘う人々の作品

心の響きが聞こえてきます。

言葉よりも深く、強く、わかりあえる瞬間があります。伝えあう喜びと通じあえる感動を。NTTはあなたとともに広げていきたい。

NTT

第3回ピアノ三重奏の夕べ

毎年十一月になるとサンクト・フローリアン・トリオの室内楽の調べが届くようになって、早いもので三年目を迎える。今年、福島・東京・千葉・埼玉で十月九・十・十一・十二日にコンサートが開かれました。

千葉では昨年は会場に若干問題があったので、今年は場所を移し、演奏者も観客も満足頂けるクラシックコンサートに企画しました。結果は皆さんにクラシックの良さを充分堪能していただけたと思います。これも偏に水戸さん、小澤さん、フィリップ氏のご協力と紙上を借りて御礼申し上げます。

残念ながら当会の宣伝不足で会場を一杯にすることができませんでした。せんではしたが、これは来年以降に生かしてゆきます。サンクス！サンクト、サンクス！千葉・田東

千葉の翌日は埼玉のコンサートですが、その前日は福島、前日は東京でした。福島いわき市での演奏を終え、一泊して東京の会場に入ったトリオのもとに昨日いったばかりのいわき市のスタッフから電話が入りました。翌週予定していたチャリティーバザーの講演をお願いしていた講師が突然倒れて入院したというのです。サンクトフローリアントリオの演奏に感動したスタッフは、ぜひその講演の代わりに演奏をしてくれないだろうかという泣きながらのお願いです。しかしフィリップ氏は三日後にアメリカに帰らなくてはなりません。水戸さんと小澤さんは急拠友人のピアノ奏者をお願いして、弦楽三重奏団を作り、十一月十六日のいわき市の骨髄バンクチャリティーバザーを成功へと導いてくれました。

四ヶ所のピアノ三重奏とおまけのチャリティーバザーへの協力、本当にありがとうございます。



「綾ちゃんの贈り物展」福島開催 二千人の感動

十月二十七日から三十日までの四日間、福島県文化センター(福島市)であやちゃんの贈り物展を開催した。

会場にはあやちゃんの七十点の作品が展示され、来場した約二千人の人々はそのすばらしさに感動し、涙ながら帰る人も少なくなかった。

骨髄バンクのパネルを展示したコーナーもじっくり見てくれる人が多く、書籍やテレカ等の

らい質問もあつたことだろうに)三瓶さん御夫妻に心から感謝したい。

来年もぜひあやちゃんに来ていただき「いわき開催」をしたと考えている。



ボランティア体験記 「気分もリフレッシュ 体験して本当に良かった」

私の勤務しています会社(三洋電機)にはボランティア体験制度というのがあります。これは、会社が認めれば、給料を全額保障した上で、ボランティア活動のために休職できるという制度です。



宮城 陸上自衛隊東北方面隊三十四周年記念行事が十月二日、霞ノ目駐屯地で盛大に行われ一般に開放された駐屯地には、県内外各地から大勢の人たちが訪れた。



千葉 電光掲示板で 骨髄バンクのPR

千葉市では、いよいよの船大幸丸「キャラバン」が訪問した時、担当の方が「電光掲示ニュースで流しましょう」と約束いた



な白血病患者の油野千里さんが移植への期待を明るく話してくれました。また「血を見るのは苦手」とおっしゃる刀根麻理子さんがドナー登録をなさるまでの気持ちの変化を率直に語られました。

群馬 群馬県で初の 大型シンポジウム開催

ボランティア団体設立後の初めての大型企画、群馬県骨髄バンク推進シンポジウムが十月二十二日、前橋市で開催され、約二百五十名の県民が参加しました。



静岡 県議会で採択 請願が

昨年暮れから全国レベルで展開してきた、骨髄移植医療の環境整備についての請願のうち、静岡県議会宛のものについて、最終的に約十三万人の署名を添えて九月二十九日、会の代表者が県庁に向かい、議長に直接提出をした。これについては、今回の請願の趣旨について当会顧問の県議会委員を中心に議会内でも多くの賛同が得られ、超党派で全議員の署名も添えることができた。

愛媛 学園祭で ビデオ上映会

愛媛大学では、十一月十一日から三日間開催された学園祭に、昨年に引き続きボランティアが「教官有志」の資格で参加、「骨髄バンクを知るためのビデオ上映会」を催しました。大学内および松山市内に撒いた二万枚の宣伝ビラに対して、入場者は延べ六十二名。昨年とはほぼ同じ数値でした。会場でのアンケートの中には、「献血なら自分も前からやっている。献血ルームでこういうビデオが常時流されているなら、もっと関心をもつ

心からのご寄付をありがとうございました

10月19日～11月21日まで

東京マリンロータリークラブ	現金	100,000
社会福祉協議会ボランティアセンター	切手	4,387
阿原一良	現金	10,000
一宮中ライオンズクラブ	現金	200,000
一宮中ライオンズクラブ	現金	1,000,000
奈良美嘉	切手	1,982
寺尾由起子	切手	468
藤田勝浩	切手	1,786
藤田勝浩	テレカ	1,000
新城ライオンズクラブ	現金	1,000
高橋真知子	現金	4,400
タカハシタカシ	現金	50,000
㈱ファミリーマート	現金	1,709,777

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すざた春、単身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩惱、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まっ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。

明日がいろいろ集まったら...

「まわりちんちんを突然おそった白血病...」という小さな笑顔を守るために骨髄移植という選択を模索した、家族や医師たちの闘いを描いた感動のコミック!! ●骨髄移植推進財団+全国骨髄バンク推進連絡協議会推薦

●A5判 定価790円(税込)

秋田書店
〒102 東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎03(3264)7248 振替・00130-0-99353

明日がいろいろ集まったら...

「まわりちんちんを突然おそった白血病...」という小さな笑顔を守るために骨髄移植という選択を模索した、家族や医師たちの闘いを描いた感動のコミック!! ●骨髄移植推進財団+全国骨髄バンク推進連絡協議会推薦

●A5判 定価790円(税込)

秋田書店
〒102 東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎03(3264)7248 振替・00130-0-99353

人が増えるだろうに」という意見が目立ちました。前々から関心をもっている人しかこういう催しには集まってこないのでは、初心者がさりげなく情報に触れられる場がまだ存在しないのは、歯がゆいことです。

地方自治体、町内会、PTA、青年会議所、労働組合などが自主的に催す啓発行事に、ボランティア側がビデオ持参で出張講演するという形が定着すれば、ビラ撒きの苦勞もだいぶ減るのになあと、考えさせられます。